

紅葉シーズンを楽しもう！

紅葉狩りの由来

紅葉を觀賞する「紅葉狩り」に、獸を捕まえる「狩り」という言葉が入るのは、平安時代に狩獵をしない貴族が花や木を眺めるために野山をめぐる様子を狩りに例えるようになったことに由来しています。貴族の間で流行した、紅葉を觀賞しながらその美しさを和歌に詠んで競う宴「紅葉あわせ」が庶民の間にも広まったことで「紅葉狩り」という言葉が定着しました。

秋になると葉の色が変わるワケ

紅葉は色の違いによって仕組みが異なります。イチョウなどの黄色に紅葉する葉には、もともと緑色の色素クロロフィルと黄色の色素カロテノイドが含まれています。通常、クロロフィルは常に分解と再生産を繰り返していますが、秋になって落葉の準備に入ることによって生産が抑制され、分解されてカロテノイドだけが残ることで葉が黄色くなります。

カエデなどの赤く紅葉する樹木は、落葉の準備をするときに葉と枝の間に「離層」と呼ばれるコルクのような役割を果たす物質をつくり、葉と幹との成分の交換を停止します。このことで光合成によって葉が生産したブドウ糖は枝へ供給されることがなくなり、葉の糖度は増していきます。そこに紫外線が当たることでブドウ糖が分解され、それまで存在しなかった赤い色素であるアントシアニンがつくられて葉は赤く色づきます。

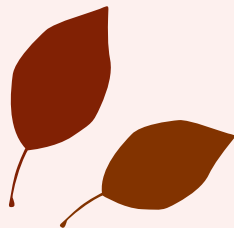


さくらの落ち葉染め

さくらの落ち葉と家庭にある材料をつかってできる草木染めです。さくらのようなやさしいピンク色に染まるので、紅葉狩りのついでに草木染め用の落ち葉を集めて染めてみましょう！

<材料・道具>

- 染める布
- 鍋、ボウルまたはバケツ
- さくらの落ち葉 使用する鍋の半分
- 水 適量
- 重曹 小さじ3
- 焼きミョウバン 小さじ1



<つくり方>

染液をつくる

- ①鍋半分まで水を入れ、落ち葉と重曹小さじ1を加え火にかけます。
- ②沸騰したら弱火にして20分ほど煮こみ、火を止めます。
- ③②から液だけ別の容器に移します。
- ④煮出した落ち葉をそのまま使い、①～③を2回繰り返します。
- ⑤つくれた液を合わせて1～2日放置したら染液の完成です。

●染める

- ⑥染め布は糊や汚れを落とし、ぬるま湯に浸けておきます。
- ⑦染液と染め布を鍋に入れて20分ほど煮こみ、漬け込んだまま冷まします。
※後で使うのでこのときの液は捨てずに取っておきます

●色を定着させる

- ⑧染め布がゆったり入る大きさのボウルかバケツにミョウバンとお湯を混ぜ入れます。
- ⑨⑦の布を液から取り出して水気をきり、⑧に入れ15分ほどかき混ぜます。
- ⑩⑨の布をお湯から取り出して水気をきり、再び⑦の液で20分ほど煮こんで漬け込んだまま冷まします。
- ⑪⑩をしっかりと水洗いし、よく絞って通気性の良い場所で乾かします。